



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'95 7月号



▲海軍火薬廠動力場から総務部・水交社・高麗山方向を望む

《夏期特別展開催》

『44万7,716本の軌跡-平塚の空襲と戦災-』

開催期間：7月15日（土）～8月30日（水）

平塚市は、昭和20年7月16日から17日の未明にかけ、B29爆撃機132機により大規模な攻撃を受けます。

これが「平塚大空襲」です。

この時、B29から投下された焼夷弾は、全部で44万7,716本を数えます。これは、一夜の投弾数としては、全国で1・2を争う数になります。その結果、死者237人、重軽傷者268人、罹災戸数7,678戸の被害を蒙ります（神奈川県警察調べ）。

こうした事実から、戦後50年にあたり、「平塚大空襲」の実態を、市域に残る戦中・戦後の資料を通して紹介し、平和の尊さを訴え、郷土平塚の近・現代史を明らかにしていきたいと思います。また、本展示は、平塚大空襲50年、戦後50年にあたり実施している平塚市の平和事業の一環として開催しております。

<1・2ページ使用の写真は米国国立公文書館蔵>
会場：平塚市博物館特別展示室・1階寄贈品コーナー

関連行事

●講演会

「戦争末期の湘南と平塚大空襲」8月13日（日）午後1時から3時まで

講師 栗田尚弥氏（お茶の水女子大学講師） 場所 博物館講堂

●戦跡見学会

「市内戦跡めぐり」7月16日（日）・8月20日（日）午前10時から12時まで

博物館前集合

*両行事とも参加自由（無料）です。

なぜ、平塚が！？

■平塚大空襲の際、B29爆撃機から投下された焼夷弾の数は、全部で44万7,716本を数えます。この数は一夜の投弾数としては全国で八王子に次いで多い数でした。

■何故、平塚が徹底的に破壊される空襲を受け、全国で1・2を争う投弾数になったのでしょうか。その理由は、3つほど上げることができます。

■その第一の理由は、平塚が県下有数の軍需都市であったことです。

当時、平塚の軍需工場は、海軍火薬廠をはじめ、横須賀海軍工廠平塚分工場、海軍航空廠などの官営工場のほか、民間軍需工場には日本國際航空工業、近江航空工業などがありました。当時、平塚の人口は54,050人であることが知られています。この5万余の人口の相当数は、当時、軍需工場に動員され他市町村から移入した住民と考えられ、1万人を越えると予想されます。そして残りの住民の多くが、先の軍需工場の従業員若しくはその家族、あるいは先の工場の関連下請け工場の従業員及びその家族でした。一体となった軍需工場と住民、それが「軍都平塚」と言われ、空襲の対象になった第一の理由です。

■その第二の理由は、軍都平塚にある工場が航空関連工業および航空技術開発の研究機関が集中する軍需工場であったことです。

アメリカ軍は、対日本との戦いの中で最も脅威に感じていたものに、日本の航空機及び航空技術そして航空機を使った特別攻撃がありました。日本國際航空工業の可変プロペラの生産は、その技術を含め日本で3番目に重要なプロペラ製作所で

あるとアメリカは考えていました。また、究極の特攻兵器「BAKA」（日本名「桜花」）が平塚で作製され、それも火薬廠で推進火薬を製造し、日本國際航空工業で機体を製作・組み立てていたことが、空襲の対象になった第二の理由です。

■その第三の理由は、アメリカが日本本土上陸作戦を実施するうえで平塚が戦略的に重要な都市であったことです。

アメリカ軍は、昭和19年7月マリアナ諸島を占領し、日本本土侵攻への重要な足掛かりを掴み、「本土上陸作戦」の本格的な研究を開始します。そして、昭和20年5月に九州と関東両地区の上陸作戦が決定承認されます。他方、平塚大空襲の計画も5月3日現在、ほぼその全容が計画・決定されていたのです。

関東上陸作戦は「コロネット」と呼ばれ、上陸地点を茅ヶ崎海岸として、西側の防備に相模川を利用し北上侵攻、八王子から東に転じ東京に侵攻するものでした。この時、戦略的に重要な都市に平塚・八王子があったと考えられます。上陸作戦を成功に導くため、戦略的に重要な二都市（航空産業を基軸にした軍都）を徹底的に破壊し、無防備の状態にして置く必要があったのです。このことが平塚を空襲の対象にする第三の理由です。

■平塚は7月16日、八王子は8月1日に、それぞれ132機、169機のB29の攻撃を受けます。そして、それぞれ116.2.5トン、1593.3トンの焼夷弾が投下され、対人口比で平塚は8.3本、八王子は8.6本という猛烈な攻撃に晒されたのでした。戦後進駐したアメリカ軍は、この二都市の破壊状況を見て「やりすぎた」と表現しています。アメリカ軍の上陸作戦との関係で平塚空襲を捉えた場合、徹底的破壊は当然なことであったのかも知れません。



▲ターゲット・ナンバーの付された偵察写真



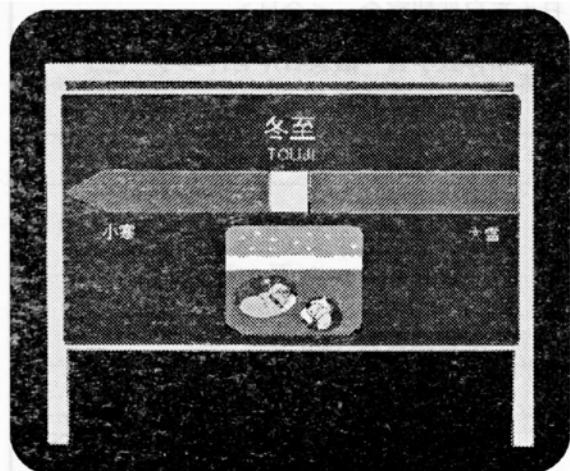
▲八幡大門通り付近（現野村証券付近）



▲東海道本通り（本宿）

夏休みプラネタリウム番組『第三惑星軌道の旅』より

「二十四節気」の話



冬至駅：番組に登場する駅はすべて二十四節気の名称です。
(イラストは仲野貴子氏)

11日分早く季節がめぐってくることになります。このままでは、翌年は22日、次は33日というぐあいに、季節と日付がどんどんずれて行ってしまいます。そこで、数年に一度、閏月という月を加えて一年を13ヶ月にし、それを調整するしくみになっていました。それでも年によっては季節と日付が1ヶ月近くずれてしまうわけで、6月といえば梅雨がすぐに思い浮かぶ今の暦とちがって、季節を知る上では不便だと言えるでしょう。そこで季節の目安となる二十四節気が暦に用いられてきました。

二十四節気の各名称は、中国では「淮南子」という前漢のころの書物にすでに見られ、漢の時代のことを記した「漢書」の、暦法に関する巻にも記載があります。ただしこのころの節気は太陽黄経で決めるのではなく、一年の日数を等分して、15日ごとにひとつの節気がめぐってくるというものでした。太陽黄経で決める方法は隋の時代にも考案されたようですが、正式な暦に採用されたのはずっとあとの清の時代になつてからでした。日本では江戸時代後期の天保暦からこれを採用しています。

1年を365日（閏年は366日）とする現在の暦は1年で季節がひとめぐりするようにできています。そこで何月何日だと言うだけで、もう季節がわかります。季節、二十四節気と日付のずれも閏年分の1日前後ですみます。こうして暦の上での節気の意義は薄れました。が、西欧的な近代化を国家的な目標とした明治の改暦のころにくらべ個々の民族が長く育んできた風習がひとつの文化として尊重される昨今にあっては、また別の意味で価値を持つようになったとは言えないでしょうか？

カレンダーには「春分」「秋分」「冬至」「夏至」のいわゆる「二至二分」のほか、「大暑」「立秋」などといった二十四節気を見かけることがあります。二至二分もそうですが、節気はそれぞれ何月何日なのか、年によって若干の異同があります。これは二十四節気が日付ではなく星座の中の太陽の位置（太陽黄経と言います）で決められるからです。たとえば立夏は太陽黄経が45°、立秋は135°の日になります。

明治五年まで用いられていたいわゆる旧暦では、月の満ち欠けを基準に1ヶ月を決めていました。ところがその12ヶ月は1年の長さ（365.2422日）よりも11日ほど短いため、次の年には

二十四節気

(月日は平成7年の値)

	太陽黄経°	月日
小寒	285	1月6日
大寒	300	1月20日
立春	315	2月4日
雨水	330	2月19日
啓蟄	345	3月6日
春分	0	3月21日
清明	15	4月5日
穀雨	30	4月20日
立夏	45	5月6日
小滿	60	5月21日
芒種	75	6月6日
夏至	90	6月22日
小暑	105	7月7日
大暑	120	7月23日
立秋	135	8月8日
処暑	150	8月23日
白露	165	9月8日
秋分	180	9月23日
寒露	195	10月9日
霜降	210	10月24日
立冬	225	11月8日
小雪	240	11月23日
大雪	255	12月7日
冬至	270	12月22日

「第三惑星軌道の旅」

7月15日（土）～9月3日（日）

●投影日と時刻

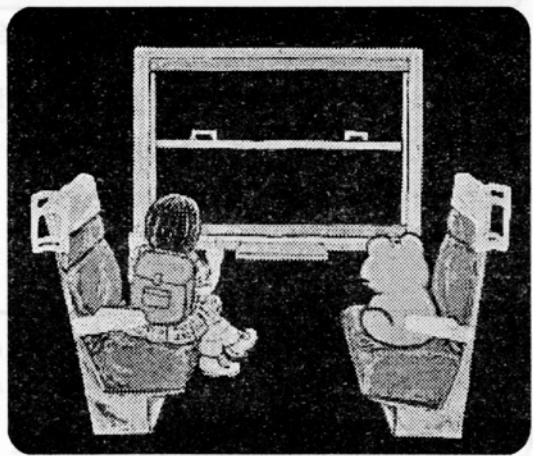
土曜日、日曜日と夏休み中の水曜日、木曜日の11:00 14:00

*水、木、土曜日の11:00の回は団体予約を優先しています。

*8月31日は月末休館日のため投影はありません。

●観覧料 1人100円

●定 員 86名



■博物館カレンダー■

7月の行事予定

1 土	地質調査会（館内） 野鳥の行動入門①（館内：講義）
8 土	◎漂着物を拾う会（平塚海岸） 古文書講読会
9 日	○みんなで調べよう「セミを調べよう」 地質調査会（野外）
12 水	地質調査会（館内）
15 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 夏期特別展開催<至：8月30日> 野鳥の行動入門②（相模川：野外観察）
16 日	◎戦跡見学会①
22 土	古文書講読会
23 日	相模川の生い立ちを探る会 「宝永火口を見る」（富士山宝永山） 天体観察会「木星を見よう」
25 火	博物館実習ガイダンス
26 水	◎第1回夏休み自由研究相談会
27 木	※自然観察入門講座「貝化石を調べよう」 ◎星を見る会「夏の星座に親しもう」
28 金	※自然観察入門講座「貝化石を調べよう」
30 日	古代遺跡を探す会
31 月	月末休館日

アーティラリム一般投影：5/6～7/9
「地球をかすめる小惑星」
7/15～9/3
「第三惑星軌道の旅」
寄贈品コーナー：6/16～7/14 生物部門 「セミ」
7/15～9/16歴史部門
「平塚大空襲」

■漂着物を拾う会■

◇海岸に打ち上げられた動物・植物・人工物を集めて調べます。

- 開催日：7月 8日（土）・8月12日（土）
- 時 間：9:30～15:00
- 場 所：平塚海岸・博物館科学教室
- 集 合：花水川河口平塚側たもと記念碑前
- 参 加：自 由

8月の行事予定

1 火	※体験学習「磨製石斧を作ろう・①」
2 水	※体験学習「磨製石斧を作ろう・②」
3 木	◎星を見る会「夏の星座に親しもう」 ※体験学習「磨製石斧を作ろう・③」
6 日	※自然観察会 <金目>
8 火	※体験学習「磨製石斧を作ろう・④」
9 水	地質調査会（館内）
10 木	◎星を見る会「夏の星座に親しもう」
12 土	古文書講読会 ◎漂着物を拾う会（平塚海岸） 天体観察会 <至：13日> 「土星・ペルセウス流星群」 地質調査会（館内）
13 日	夏期特別展記念講演会
16 水	○みんなで調べよう「セミの抜け殻調べ」 裏打ちの会
17 木	◎星を見る会「夏の星座に親しもう」
19 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会「スター・ウォッチング調査」
20 日	相模川の生い立ちを探る会 「三ツ峠山に登る」<山梨県西桂町> ◎戦跡見学会② 天体観察会「スター・ウォッチング調査」
22 火	※体験学習「地形模型を作ろう・①」
23 水	※体験学習「地形模型を作ろう・②」
24 木	◎第2回夏休み自由研究相談会 ◎星を見る会「夏の星座に親しもう」 天体観察会 <予備日> 「スター・ウォッチング調査」
26 土	古文書講読会 ※体験学習「地形模型を作ろう・③」
27 日	古代遺跡を探す会
31 木	月末休館日

◎は参加自由 ○※は申し込み制 他は会員制

■星を見る会「夏の星を見よう」■

◇望遠鏡による観察を通して、天体及び宇宙に関する理解を深めます。

- 開催日：7月27日（木）<19:00～20:30>
- 場 所：博物館屋上
- 集 合：博物館：1階科学教室
- 参 加：自 由
- 備 考：曇・雨天時中止

あなたと博物館 20巻4号 通巻221号 03000 発行 平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41 TEL: 0463(33)5111 FAX: 0463(31)3949 ※この用紙は再生紙を使用しています